

旭川市総合計画審議会 令和5年度第1回会議の記録

日時	令和5年4月24日（月）18時～20時
場所	旭川市9条通9丁目右10 旭川市職員会館2階 2・3号室
出席者	委員18名 岡田委員，小野委員，柏葉委員，木曾委員，桑野委員， 佐竹（明）委員，佐竹（利）委員，佐藤委員，塩川委員，篠田委員， 滝山委員，中川委員，中村委員，仁木委員，西田委員，畑山委員， 古田委員，吉見委員
欠席者	片岡委員，河上委員，熊谷委員，清水委員
会議の公開・非公開	公開
傍聴の数	0名
会議資料	次第 資料1 第8次旭川市総合計画基本計画見直しの考え方（素案） 資料2 第8次旭川市総合計画進捗状況報告書（素案） 資料3 第8次旭川市総合計画基本計画見直しの考え方（素案），第 8次旭川市総合計画進捗状況報告書（素案），第8次旭川市 総合計画基本計画【改定版】対応表 資料4 会議の進め方について 資料5 旭川市総合計画審議会 第1回会議の記録 当日説明資料
会議内容	
1 委員紹介	
（前回欠席委員の紹介，人事異動等に伴う新任委員の紹介及び委嘱状交付）	
2 開会	
3 議事録の確認，質問回答	
事務局	（前回の議事録について説明。前回会議での質問への回答）
4 議事	
「第8次旭川市総合計画基本計画見直しの考え方（素案）」について	
会長	本日の会議から「第8次旭川市総合計画基本計画見直しの考え方（素案）」 について，委員の皆様の意見を伺うこととなる。 まず，会議の進め方について，事務局から，説明を受けたいと思う。
事務局	（資料1～4に基づき，説明）
会長	只今，事務局から説明があったが，質問等はないか。 それでは，資料1「第8次旭川市総合計画基本計画見直しの考え方（素 案）」をもとに，事務局から概要の説明を受けて，皆さんからの意見を伺い

	<p>たいと思う。</p> <p>では、資料1の「1 概要・目的」、「2 見直しの考え方」については、関連する部分であるので、まとめて説明を受けたいと思う。</p> <p>事務局から、説明願う。</p>
事務局	(項目の趣旨などについて、簡単に説明)
会長	<p>次に、資料1の「3 見直しに係る検討要素」について、順次、事務局から説明を受けたいと思う。</p> <p>順番どおりだと「(1) 都市像の実現に向けての重点テーマの見直しに係る検討要素」についてからだが、重点テーマについては、基本計画全体に関わる項目であることから、会議の進行上、後段において、全体を通して意見を伺うこととし、「(2) 基本政策見直しに係る検討要素」から、説明を受けたいと思う。</p> <p>最初に、「ア 新型コロナウイルスの感染拡大の影響からの回復」について、事務局から説明願う。</p>
ア 新型コロナウイルスの感染拡大の影響からの回復	
事務局	(項目の趣旨などについて、簡単に説明)
会長	では、「ア 新型コロナウイルスの感染拡大の影響からの回復」について、意見等はないか。
委員	<p>新型コロナウイルスは全く予期しないところで発生し、国民生活の移動に関することで、制約を受けた。観光業をはじめ、飲食業に多大なる影響があったことは御承知のとおりと思う。</p> <p>現在、ハイヤー、タクシー業界の売上は2019年との比較で80%数字が戻ったと考えているが、感染予防の意識が高まり、飲食業は先が見えていない状況である。</p> <p>他方、各中小企業においてはコロナ禍で受けた融資の償還期限を迎えてきている。経済の回復のときに、融資の返済時期に入っており、景気が鈍化すると思っている。それに対する対策をしっかりと行っていただきたい。</p> <p>また、観光施策については、イベントなどしっかりと対応いただきたい。</p> <p>観光で来られた方の足の確保というか、DXを活用し、有益な交通網の選択手段を確保するなど、市が主導で行っていただきたい。</p>
会長	業種によっては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていることと思う。
委員	企業では、融資の返済のための費用を収益から出すことになる。市場に回すお金、設備投資に向けるお金が少なくなるため、景気に影響を及ぼすことになる。融資の期限を延長するのではなく、抜本的な策が必要ということである。

事務局	実際の収益の度合いと返済の動向を見極めてから対策を講じることになると思う。中小企業の状況を見ながら、迅速に対応できる体制をとっていききたい。
会長	では、こちらについては、出された意見を踏まえて事務局で再検討願う。次に、「いじめ防止対策の推進」について、事務局から説明願う。
いじめ防止対策の推進	
事務局	(項目の趣旨などについて、簡単に説明)
会長	では、「いじめ防止対策の推進」について、意見等はないか。
委員	中学校であった事例だが、LINEグループのトラブルに対し、保護者が学校側に対策をとれないかと聞いたところ、学校単位で積極的に対応はできない、市の方で通達があればできる、家庭の方で言ってほしいと言われたそうである。その後、いじめ防止対策についてはSNSのつながりも含めて保護者と使い方を考えようとの話は聞いたが、市全体で中学生ぐらいのことを考えてもらいたいと思った。
会長	この件について市や委員から意見はあるか。
事務局	今年の4月にいじめ防止対策推進部ができ、市長部局でも心理士、スクールソーシャルワーカーなどの専門家呼び、SNSの対策も含め、弁護士を含めて対策を組んでいこうとしている。 いただいた意見を踏まえ参考とさせていただく。
副会長	今のような事例があると、父兄と学校だけの対応だけでなく、窓口が必要と考えた。市長部局の諮問機関のものなのか、学校だけでない、全体的に対応できるような組織を考えていければよいと思った。
会長	窓口があってもアクセスができないことに課題がある。
事務局	現在、専用のフリーダイヤルの開設や返信チラシ付きのはがきの作成のほか、いじめ相談アプリの活用など積極的な情報収集を行っていく予定である。
会長	DV窓口の情報は普段目に触れるところに貼られている。いじめの窓口の情報も困ったときに始めて探すのではなく、普段目に触れておける場所で周知するという必要もある。
委員	いじめの問題は学校の中だけでクローズする問題ではない。昔は、学校の中でいじめる人間もいたが、止める人間がいて中和がとれていた。今は、見えないところでグループ化し、非常に陰湿な状況である。起きてしまっからのフォローのほか、起きる前のフォローも必要である。 おじいさん、おばあさんを学校に常駐させるとか、そういう方の目から見た学校の実態を報告いただくとか、抜本的なところから見直していく必要があるかもしれない。こういう状態になって、スマホを持つな、SNS

	<p>の対策を使うなどとは言えない。難しいと思うが1件でも2件でもいじめがなくなるように環境を整備していただければよい。</p>
委員	<p>電話ダイヤルの存在自体は周知されており、学期の始めなどに配られている。ただ、電話をしたらどう対応してくれるのかは見えない。心を閉ざしている状況だと助けてくれるという確信がないと、そもそもアクセスする気力が湧かない。</p>
会長	<p>電話をかけた後のイメージを知りたいというのは、今後の広報などの参考になると思う。</p>
事務局	<p>地域との連携など校外での取組を考えていきたいし、生の声を聞きながら対策をとってまいりたい。</p>
委員	<p>教員のサポートや責任が起きないような仕組みも必要であると思う。 自分が責任を持つようになると、躊躇したりすることもある。教員という仕事はきついし、安い。なり手がいない状況である。 教員の負担軽減、精神的なサポートもセットでやっていただきたい。</p>
会長	<p>安心して教員が取り組めるようにサポートしていただきたい。</p>
事務局	<p>新しい部署には弁護士の配置も考えているので、懸念をなくすようサポートしていきたいと思う。</p>
会長	<p>教育委員会と市長部局が一体となって取り組むということだが、教育長が元旭川市総務部長である。トップが市になると、言いたいことが言えないということにはならないか。</p>
事務局	<p>これまでは学校のことは教育委員会が所管しており、市長の権限が及ばないということが課題であった。ただ、いじめの重大事態が起きたときには、市長部局の権限で迅速に対応することも必要であり、勧告制度の導入も検討している。 教育委員会との連携も必要であるし、市長部局の職員が市長の指示を受けて迅速に対応することも必要であり、取組を進めている。</p>
会長	<p>体制が整えられているとのことである。</p>
委員	<p>いじめ防止対策の推進においては、一律に考えるのではなく、世代ごとに、どういう家庭かを踏まえてサポート体制を整えてほしい。状況によっては、より思い詰めてしまうこともある。家庭の状況に合わせたサポートが必要である。 SNSは世界につながっていくものであり、自治体でできることはたかが知れていると感じる。教育の在り方そのものを変えていくことが必要で、通信の在り方など学びの場を自治体として提供できるとよいと思う。</p>
事務局	<p>子どもの貧困、ヤングケアラーの対策などの課題に対し、市でも必要な施策を講じている。いじめだけでなく、幅広い施策の中で対応していき</p>

	い。
職務代理者	いじめでトラウマがあると、その先に社会に出られなくなることが考えられる。トラウマのケアが必要で、安心して過ごせる居場所を提供することが大事であると思う。
委員	発達に問題のある子がいじめの標的になりやすい。このような子もいるということを小さい頃から伝えていくことで、心遣いができるようになる。
会長	不登校の子の居場所づくりが必要である。回りの人たちが受け入れて個性の一つとして認めることが必要である。知識がないと、相手の反応がわからなくて排除することもあると思う。
委員	アメリカでは、いじめた方にカウンセリングをすると聞く。いじめる側の家庭環境も9割方影響しているという結果も出ている。いじめる方にも目を向けることが重要だと思う。
会長	では、これらについては、出された意見を踏まえて事務局で再検討願う。 次に、「ウ 健福祉都市に向けた取組の推進」について、事務局から説明願う。
ウ 健福祉都市に向けた取組の推進	
事務局	(項目の趣旨などについて、簡単に説明)
会長	では、「ウ 健福祉都市に向けた取組の推進」について、意見等はないか。
委員	健康とはどういう状態をいうのかはそれぞれ考え方が異なるため、それぞれのアプローチが必要である。公衆衛生学的なもののほか、心理的なものも影響する。
事務局	健康をどう定義するかによってアプローチを変えていったらよいという意見と思う。健福祉都市を目指す上で様々なアプローチにより効果的な施策につなげていきたい。
委員	旭川市は介護サービス施設の新規開設を今後も受け入れるのか。介護人材の不足もあるし、施設によっては人材不足で介護の質を保つことが困難な事業所もある。 施設や事業所が多いことで他市町村より介護保険料が高くなっている。 介護保険指定の事業所の入所に空きがあるのに、民間施設が開設されることも課題である。国土交通省が所管するものもあり難しいが、市独自で何らかのルールが必要ではないか。
事務局	市で策定した高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の中で総量を規制しているが、担当部とも話しながらしっかり検討していく。
委員	人口減少の中、増えているのは高齢者で、周辺町村から旭川市に移り住むことが多い。それは旭川の医療を求められているということである。医

	<p>療に関しては医療人材が枯渇しており、近年は質の確保ができない状況もある。</p> <p>訪問介護事業所は閉鎖する事業所もあり、安定して維持していかなければならないと考えている。介護保険は単位数が一定であるが、地域によっては地域加算が可能なところもある。市でも検討していただきたいと考える。</p>
会長	住みたいところで住みたい生活ができることがよい。
委員	健幸福祉都市の実現に向け、事業所の運営のため、機械整備の費用補助も検討していただきたいと考える。
会長	<p>では、こちらについては、出された意見を踏まえて事務局で再検討願う。</p> <p>次に、「エ 旭川市地域共生社会の実現に向けた施策の推進」について、事務局から説明願う。</p>
エ 旭川市地域共生社会の実現に向けた施策の推進	
事務局	(項目の趣旨などについて、簡単に説明)
会長	では、「エ 旭川市地域共生社会の実現に向けた施策の推進」について、意見等はないか。
副会長	<p>コロナウイルス感染症の影響で地域住民が集まる機会が少なくなっている。市からは、5月からアプリを作って発信するという説明を受けたが、全市でアプリに対応できるかどうか不安である。町内会の加入率が低くなり、また、施設に入ったため町内会にいないという状況もある。安心見守り、福祉の活動をしているのも町内会であるというのも事実である。コロナ禍からの脱却で、活動をして始めた今後の取組が重要であり、デジタル化やアプリの導入のみで市民委員会や町内会が活性化するものではない。まちづくりという中で、小学生、学校の先生、教授など様々な方がまちづくりの中で事業を行いながら、市民委員会、町内会を活性化していく必要がある。まちづくり推進協議会の取組も進めていきたいと考える。</p> <p>旭川市も、補助金の交付だけでなく、企画立案の段階からの協力体制が必要と思う。各地区での課題があるので、課題を取り上げて盛り上げる施策をしていただければと思う。</p>
会長	事業を始めるのにエネルギーがいる。学校も町内会も同じと思う。様々な課題への支援も、ご高齢の方だけの集まりではなく、学生も入り、動機付けを行うなど、それぞれの機関が呼び掛けをすることもよいと思う。
事務局	デジタル技術の活用はあくまで手段である。健幸福祉都市として人と人とのつながりを大事にし、市としても、市民委員会、まちづくり推進協議会、また、担当する市の組織としても一つの課に統合されたので、より実行力のある組織に近づけていけたらよいと思う。

職務代理者	<p>旭川医科大学では、地域包括ケアのカリキュラムを導入し、学生をどんどん地域に出すという取組を進めており、まちづくり推進協議会の役員に学生を出すという取組を行っている。</p> <p>旭川大学は永山と連携しているが、本学では緑が丘、西神楽、神楽の3地区で20人ずつ地区担当を持ち、地域のイベントに参加するなど取り組んでおり、積極的な学生は参加している。地域の担い手は高齢者が多いが、若い人の力をどんどん活用していくとよいと思う。学生たちも喜んで参加しており、学校の強みにもなっている。</p> <p>市内の教育機関とのコラボというのも採り入れてもらえればと思う。</p>
副会長	<p>小学生との連携や教育大の学生とも連携し、イベントを行っている。こういったことも文章に入れてくれるとよいと思う。</p> <p>ただ、新型コロナウイルス感染症の影響から行事への参加に消極的な学校もあることが課題である。</p>
会長	<p>様々な意見をいただいた。市の情報の提供の仕方にも参考になると思うが、参加する側としては、どういった情報であると参加しやすいのか。</p>
委員	<p>保健師になると地域とのつながりが大事になると聞く。学生の時に体験することは貴重な体験になる。学生だとキャリアに関係あると参加してみようという動機付けになる。例えば、助産師を目指していると、赤ちゃんに触れ合おうなどの行事は参加したいと思うのではないか。</p>
会長	<p>その人に響くような呼び掛けが必要ということだと思う。</p>
委員	<p>非常に大きい問題であると思う。地域の自治ができないことは問題である。高齢化が進むほど、地域の活動に若い方が参加していない状況があり、少しでも情報を提供できるよう、市でもDXを絡めたアプリという発想になったと思う。回覧板を回すけど、見ない人はアプリを使う。</p> <p>また、イベントで交流を深めていくことも重要だが、イベントができない地域もある。</p> <p>地域まるごと支援員の活動など、5080問題に対応している事例もあるが、情報を発信しながら利用できるような環境を作っていければと思う。条例で町内会加入を決めてしまうということも考えられる。</p>
会長	<p>情報の共有は大事だと思う。様々な組合せが必要と思う。</p> <p>では、こちらについては、出された意見を踏まえて事務局で再検討願う。次に、「オ 旭川市立大学の開学」について、事務局から説明願う。</p>
オ 旭川市立大学の開学	
事務局	<p>(項目の趣旨などについて、簡単に説明)</p>
会長	<p>では、「オ 旭川市立大学の開学」について、意見等はないか。</p>
会長	<p>校舎を建設する位置で議論があり、新学部の開部時期への影響について</p>

	も話題となっていたが、課題認識の確認や新学部の設立に向けての要望など何か意見はあるか。
委員	<p>旧東海大学旭川キャンパスについて、活用の見通しがあれば教えてほしい。</p> <p>また、デザイン学科がなくなり、旭川市立大学にデザインの要素を採り入れた学部が創設されるというが、スキルというのではなく、機械化されていく時代に何かを生み出していくということが大事になってくる。デザインというものの在り方という議論もあるが、大学で何かを身につけるといふ前に、大学で何かを生み出していく力を身につけることができれば、その後で地域で幅広く活躍する人材が増えると思っている。</p>
事務局	<p>1点目についてだが、旧東海大学旭川キャンパス施設は、平成28年に市が譲渡を受けている。校舎のあった部分は北海道立北の森づくり専門学院が実習に使っており、グラウンドは少年野球が、通路はクロスカントリーの少年団が使っているが本格的な譲渡や使用には至っていない。関心を示す事業者も複数いるが、道路や水道などのインフラ環境に課題があることから開発の目処が立っていない状況である。北の森づくり専門学院とも引き続き連携しながら、検討を行っている状況である。</p> <p>2点目についてだが、旭川市立大学で検討されている新学部については、デザイン思考を学びの柱の一つとする予定であると伺っている。地域の課題を見つけ、解決策を模索することが学生の学びの中に取り込まれる予定であり、そういう人材がデジタル時代に必要であり、カリキュラムを現在検討していると聞いている。</p>
会長	<p>地域をデザイン、健康をデザイン、まちをデザインなどという意味で検討されている。もともとはデザインという、ものづくりだったが、まちづくりの観点で、創生するという学部を目指していくと聞いている。</p>
委員	<p>地域包括ケアなど4年間を通して売り出していくものがあれば、学生を集めるきっかけになると思う。どのようなカリキュラムがあるか。</p>
会長	<p>経済、福祉、看護の学部間交流を図るよう取り組んでいる。</p> <p>看護学部でも領域別ではなく横断的に学ぶという点では、地域に関するものもあり、新しいカリキュラムがスタートしての4年となっている。</p>
委員	<p>他学間の交流が学生にとって大事であると思う。</p> <p>旭川市立大学では、学部が多いことの魅力を打ち出していくことができるとよいと思う。</p>
会長	<p>経済学部があるため、医療経済学も選択でき、実際に効果のできるケアなのかということも学ぶ機会になる。</p>
委員	<p>大手IT企業の方が言っていたが、これからはアプリはプロが作るので</p>

	<p>はなく、生活の役に立つものを地域の方々で作っていくことになると言っていた。民生委員児童委員の活動のICT化や町内会のアプリの話もあったが、DXということで進んでいくと思う。小学生、お年寄りも含め、いろいろなところにいろいろなアイデアが転がっていると思う。地域、デザインというキーワードがあるが、地域を豊かにするためにモノやシステムを作ることになるかもしれないが、アイデアをうまく拾い上げるようなことができる、他でみたことのない学校になると思う。</p> <p>旭川高専は、地域とのつながりで、旭川市立大学にも話したいと考えている。ものづくりは、旭川の弱いところであり、いかに盛り上げるかを考えたい。それによって地域に残る、地域の中で見つけることで、若者が増えていく、教育の中に入っていれば、入りやすいだろうし、新しい形の仕組みを、旭川市立大学、旭川高専などで大学を中心に作ることができればよいと思っている。大きな意味での旭川のキーワードになるデザインということで、学科を作っただけだと面白いと思う。</p> <p>高専は、旭川の子ども達を外に出すという仕事になっている。地域の企業からは、旭川市に残してくれと言われている。今年からはいろいろ考えて、取組をしたい。その取組としては、旭川公立大学を中心にして組み立てることも考えられる。旭川はICTパークなどDXの中心となるべき組織もあるので、市を挙げてまちづくりをしていくというような形になれば、それこそ面白い。そこから外に売り出す製品や新しい企業が出てくる可能性もある。そう考えると、残りたいという子も増える。</p> <p>大学は外から人が入ってくるので、いろいろな良い大学もあり、外に出さない、多くの魅力を出すということが大事だと思う。</p>
会長	<p>では、こちらについては、出された意見を踏まえて事務局で再検討願う。予定している時間がきたので、本日はここまでとし、次回は(カ)から、意見を伺いたいと思う。</p> <p>また、次回は残りの項目のほか、本日の分も含めて「見直しの考え方(素案)」全体を通しての御意見も伺いたいと思うので、よろしく願います。</p>
5 次回の審議会について	
会長	次回の審議会について、事務局から説明願う。
事務局	<p>次回の審議会については、5月連休明けに開催したいと考えている。</p> <p>資料と併せて日程調整表を配付しており、都合の悪い日時に×を付け、今週末を目処に、事務局までファックスいただくか、電話やメール等で都合の悪い日の連絡をお願いしたい。その結果をもって、次回日程を決定し、後日、詳しい時間や場所などについては、案内させていただきたいと思う。</p>
6 閉会	

会長

それでは、本日の会議はこれで終了する。